

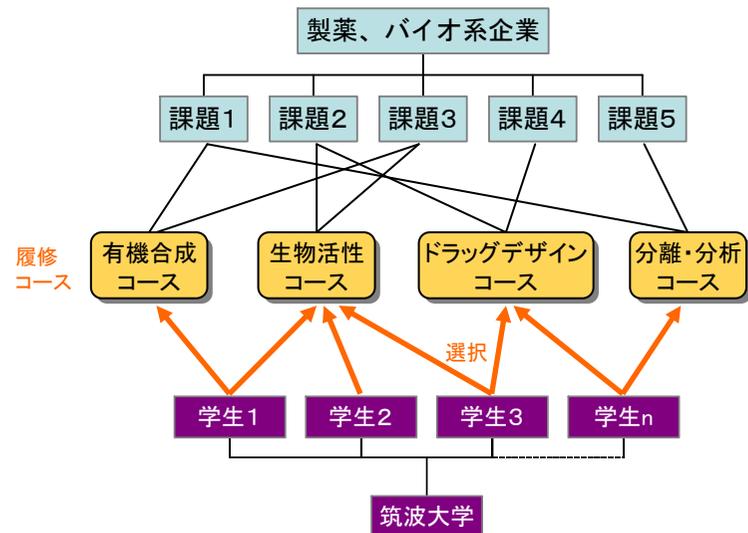
# 筑波大学

## 取組名称: 大学と企業とで育てる創薬化学高度人材

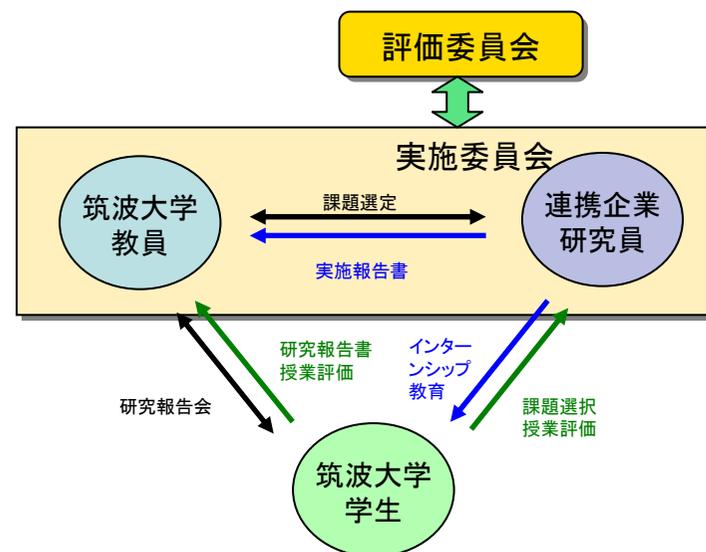
### 【取組概要】

大学院での化学教育は、基礎的な化学の知識と技術を習得させることを重視しているため、創薬化学の最先端技術と知識を十分学ぶことには適していない。そこで、一般的な大学院化学教育ではほとんど触れられていないが、創薬化学企業の現場で問題を発掘し解決するために必須である課題を、インターンシップ教育として実施することとした。

### 履修コース選択型のインターンシップ実習教育



### 大学と企業によるインターンシップ教育実施体制



### 【成果等】

インターンシップ実習を通じて、大学と企業とで高度職業人を育成するカリキュラムと枠組みを構築した。その結果、

- ・化学専攻学生(5年間で24名)の創薬化学人材育成を行うことができた。
- ・大学、学生と連携企業との間で取り交わす協定書や誓約書を作成し、今後の他企業との連携を容易とした。
- ・連携企業を増やすことにより、複数企業による履修コース選択型インターンシップ教育を実現した。

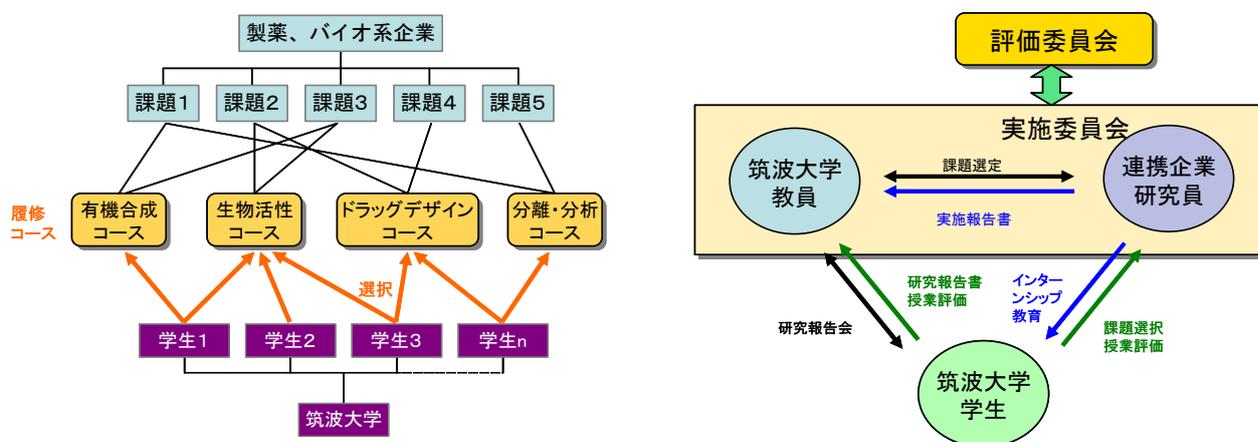
**産学連携による実践型人材育成事業 ー長期インターンシップ・プログラム開発ー**  
**最終評価結果**

大 学 名	筑波大学
教育プロジェクト名称	大学と企業とで育てる創薬化学高度人材
事業責任者	数理工学系科学研究科教授 新井達郎、山本泰彦、木越英夫

**事業概要**

大学院での化学教育は、基礎的な化学の知識と技術を習得させることを重視しているため、創薬化学の最先端技術と知識を十分学ぶことには適していない。そこで、一般的な大学院化学教育ではほとんど触れられていないが、創薬化学企業の現場で問題を発掘し解決するために必須である課題を、インターンシップ教育として実施することとした。

**履修コース選択型のインターンシップ実習教育 大学と企業によるインターンシップ教育実施体制**



**最終評価結果**

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

**コメント**

《優れた点》

1. 本プログラムは、地元にある万有製薬つくば研究所の全面的な協力を得て創薬分野での高度人材育成を狙ったものである。大学院における化学教育では、先端的な創薬化学を十分に学べる環境になっていないことを踏まえ、企業との連携によって新たな高度教育の場を創成しようと試みたものとなっている。本事業は、中間評価の段階では幾つかの課題が指摘されていたが、その後、(1)派遣先が1機関から3機関に広がり、創薬化学単独から、化学分野全般に広げる動きに変わった、(2)企業の要望、学生の意見も大幅に取り込み、大学からの援助も得られ継続する力が生まれた、(3)情報発信が行われ、地域大学や研究機関との連携も進んだ結果、産学連携人材育成が見えるようになった等の改善が見られた。
2. 全学的な協力を得てからは企業の協力も高まり、学生にとっても選択肢の多いプログラムに成長した。今後も継続できる予算措置が大学によって図られたことは評価したい。

《改善を要する点》

1. 長期インターンシップは高度人材育成の一環であって全てではない。今後は、より多くの学生が参加できるテーマの面白さ、未来展開できる自己開発プログラムなど大学側の課題認識を見直し、新鮮な教育提案を行って未来展開につなげて頂きたい。
2. 本プログラムを成長させるためには教育効果について具体的な評価方法を検討する必要があるだろう。
3. 大学として教育プログラムの位置づけと拡大を図っていただきたい。
4. 企業としてのメリットを明確にする必要があるのではないか。
5. 学び甲斐があるか、学生側になって考えることが必要ではないか。